

須賀学園創立110周年記念特集号

ひめまつ

65



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

ひめまつ 目次 (第六十五号)

表紙……伊藤花 題字……石川木魚 写真……写真部・編集委員会
校歌 生活目標 裏表紙……佐藤杏奈

グラフ「学園の四季」

須賀学園創立百十周年を迎えて

祝 辞 理事長 須賀 淳 …… 1

◆ あいさつ

決意のことば …… 生徒会長 仲田 涼介 …… 7

論説 安心の子育て環境づくりと

人材養成 …… 宇都宮共和大学長 須賀 英之 …… 8
附属中学校長

特集1 創立一〇周年を祝う

特集2 宇都宮共和大学に子ども生活学部新設 …… 13

特集3 普通科に特別選抜コース新設 …… 14

皆さんの声を力に(生徒会長に就任して) …… 宮岡 翔 …… 16
協力に感謝して(任期を終えて思うこと) …… 仲田 涼介 …… 17

◆ 声

「積み重ねていく歴史」 …… 三年 一組 渡辺 けあき …… 18
「教養をつなぐ」 …… 三年 九組 佐川 颯一朗
「新しいものにチャレンジ」 …… 二年十七組 上野 亜莉奈
「百年の重み」 …… 一年十一組 三上 隆拓

◆ 心に強く響くもの (校内読書感想文コンクール入賞作品) …… 20

校内読書感想文コンクール入賞者一覧

【第三学年の部】

第一位 太宰治・著『人間失格』を読んで …… 一組 大円 志織
第二位 重松清・著『その日のまえに』を読んで …… 三組 渡邊 令奈
第三位 紙屋克子・著『私の看護ノート』を読んで …… 一組 百目鬼 紗也加

【第二学年の部】

第一位 川端康成・著『花のワルツ』を読んで …… 一組 杉山 比呂美
第二位 夏川草介・著『神様のカルテ』を読んで …… 三組 大島 美里
第三位 カフカ・著『変身』を読んで …… 三組 中山 莉佳

【第一学年の部】

第一位 三島由紀夫・著『午後の曳航』を読んで …… 四組 津久井 玲人
第二位 喜田川泰・著『君と会えたから』を読んで …… 八組 采女 理沙
第三位 重松清・著『その日のまえに』を読んで …… 三組 高須 円香

◆ 作品集

○各種コンクール等入賞者一覧

【税に関する作文】

宇都宮税務署管内租税教育推進協議会長賞

「心のノート」の大切さ

宇都宮税務署長賞

税について

【随想】

【短歌撰】

一年 三組 池田 香織
一年 六組 遠藤 みどり
二年 一組 小松崎 爽輔
三年七組(普通科進学コース選抜クラス)

◆ あとらんだむ

一年間の反省と、二年生になる抱負

二年生の反省と、最上級生になる抱負

フランス海外研修旅行記
イタリア海外研修旅行記

旧・一年 二組 篠崎 拓哉
旧・一年 三組 岩下 啓明
旧・一年 二一組 渡辺 早貴
旧・一年 二二組 榎本 有希
旧・二年 一組 益子 美咲
旧・二年 七組 赤坂 浩史
旧・二年 十二組 猪瀬 優輝
旧・二年 十五組 天野 実季
旧・二年 二十二組 鈴木 菜穂
旧・二年 二十一組 相馬 生久実
二年 十六組 稲葉 紗由美

◆ 沖縄・東京・茨城の旅

沖縄から学んだこと

一日旅行

一日旅行の思い出

一日旅行に行つて

一日旅行

一日旅行について

二年 一組 田崎 円
二年 五組 舟本 麻美
二年 六組 末光 孝紀
二年 九組 蜂巣 瑠衣子
二年 二十三組 木村 優希
一年 十六組 落合 桃子
一年 十七組 池澤 有紗

◆ わがホームルームの紹介

三年・二年・一年

◆ 委員会・部活動報告

交通安全・風紀・美化委員会

華道・茶道・理科・インターアクト・演劇・囲碁将棋・服飾手芸・ブラスバンド・弓道・男子バレーボール・

女子バレーボール・水泳・卓球・男子サッカー・女子サッカー・新体操・男子ソフトテニス・

女子ソフトテニス・柔道・男子バスケットボール・女子バスケットボール・剣道

◆ 学園告知板

記念式典



▲長い歴史と伝統輝く創立110周年記念式典（須賀栄子記念講堂大ホールで）



▲全員で校歌の大合唱



▲理事長先生のごあいさつ



▶在校生を代表して
仲田涼介生徒会長があいさつ



▲指揮者/星野和夫先生 ソリスト/川久保博史、森本美さん
（皆さん本校の卒業生）

創立110周年を祝う

学園の四季

◆平成二十二年度生徒会報告

◎主な大学合格者数一覧（過去三年間）・就職状況
◎編集後記
◎校史と校章

200 198

194

宇都宮共和大学・宇都宮短期大学（人間福祉学科）コーナー

180

附属中コーナー

155

◆教育実習生、母校の教壇に

国語科 学習院大学
公民科 筑波大学
理科 東京学芸大学
音楽科 宇都宮短期大学

山崎 絵美
田村 香織
手塚 博紀
高山 奈七佳

149

須賀学園創立110周年記念 平成22年度学校祭を開催

～輝く「今」を 広がる「未来」へ～



▲生活教養科のファッションショー。
華やかな衣装と演出にくぎづけ



▲季節を感じさせるお料理の数々。
調理科でますます腕をあげました。



◀「調理科特製ピザはいかがですか？」



▲プラスバンド部によるオープニング演奏



▼音楽科によるオペレッタの上演
「サウンド・オブ・ミュージック」より



▲学校祭生徒会受付



須賀学園創立百十周年を記念した中学・高校合同の学校祭が創立記念日の十月三日に大勢のお客様をお迎えし、本学園教育会館と須賀栄子記念大ホールにて盛大に行われました。
各科、各クラス、各部ごとに日頃の勉強や練習の成果を披露。友情を深める一日となりました。



理事長 須賀 淳 あつし

須賀学園創立百十周年を迎えて

——創立百十周年記念式典あいさつ——

本日は、須賀学園の創立百十周年にあたり、栃木県私立
中学高等学校連合会会長 船田 元様をはじめ、多数のご来
賓の方々のご臨席をいただき、須賀栄子記念講堂におい
て記念の式典を挙行することができますことは、私の大き
なよこびとすることであります。

顧みますと、明治三十三年十一月三日、私の祖母須賀栄
子が、二十七歳の女性の身をもって本学園を創立して以来
百十年。この間、明治・大正・昭和・平成と幾多の風雪はありましたが、おかげさまにて中学・
高校・宇都宮短期大学・宇都宮共和大学と今日の姿に発展することができました。これもひとえ
に教職員、卒業生、在学生、ご家族の皆様方のご尽力と、それをあたたく支えてくださいまし



生徒会行事 あれこれ

スポーツ
フィスティブアル (H22.6)
熱き戦いの後にさわやかな
風を感じた青春の一日

生徒会役員

 副会長 高山 昇太	 副会長 榎本 有希	 会長 宮岡 翔
 庶務 吉田 一彩	 庶務 高野澤 さやか	 会計 鯉 潤 蒼
 議長団 小倉 明菜	 議長団 大出 悠真	 議長団 上林 翔太
		 議長団 鈴木 菜

た栃木県および宇都宮市ならびに那須キャンパスがございます那須塩原市はじめ多くの関係者の方々のご支援によるものでありまして、深く感謝いたしております。

本学園は、創立者の須賀栄子、第二代の須賀友正、そして須賀淳、須賀英之と百十年にわたり、建学の精神を受け継いで私学教育に邁進してまいりました。創立者須賀栄子の膝の下で育った私は、学園創設の苦難も子供心によく知っておりますし、父須賀友正の守成の努力、とくに戦中、戦後の激動の時代の苦難は、私自身も身をもって体験しているところであります。

私学は独自の崇高な理想と信念によつて設立されております。いわゆる建学の精神であります。この百十年の間、本学園の教育理念である「全人教育」に力を尽くしてまいりましたが、私は、教育は人間の仕事のなかで最も尊いものであると同時に、最も難しいものであると思ひます。そして時世はつねに移り変わります。教育もまたその時代の要請に応じて新しく脱皮してゆかなければなりません。古きのみ守つてはいけませんし、また新しいものばかりを追つていてもいけないのであります。孔子も「故きを温ねて新しきを知れば、以つて師たるべし」といつております。いま時代は、IT革命やグローバル化という大きな構造変革期に入っております。二十一世紀の社会が教育にもたらすであろう可能性と課題を見据えながら、本学園も大きく発展してゆかなければなりません。

このため、来年度からの新たな取組みとして、宇都宮共和大に子ども生活学部を、宇都宮短大

音楽科にサクソフォンコースを、附属高校普通科に特別選抜コースをそれぞれ新設して、教育研究の充実を図つてまいります。

本学園は、現在卒業生は五万六千名、在学生三千余名を擁する中学・高校・短大・大学となっておりますが、この学園の発展は一朝一夕になしたものではありません。創立者須賀栄子がか弱い女性の一身を賭して営々と築き上げた辛苦の賜物であります。私はつねに自粛自戒、もつて創立者の理想を継承して、本学園の充実発展に努め、学生生徒の教育に全力を傾注いたしたいと存じます。

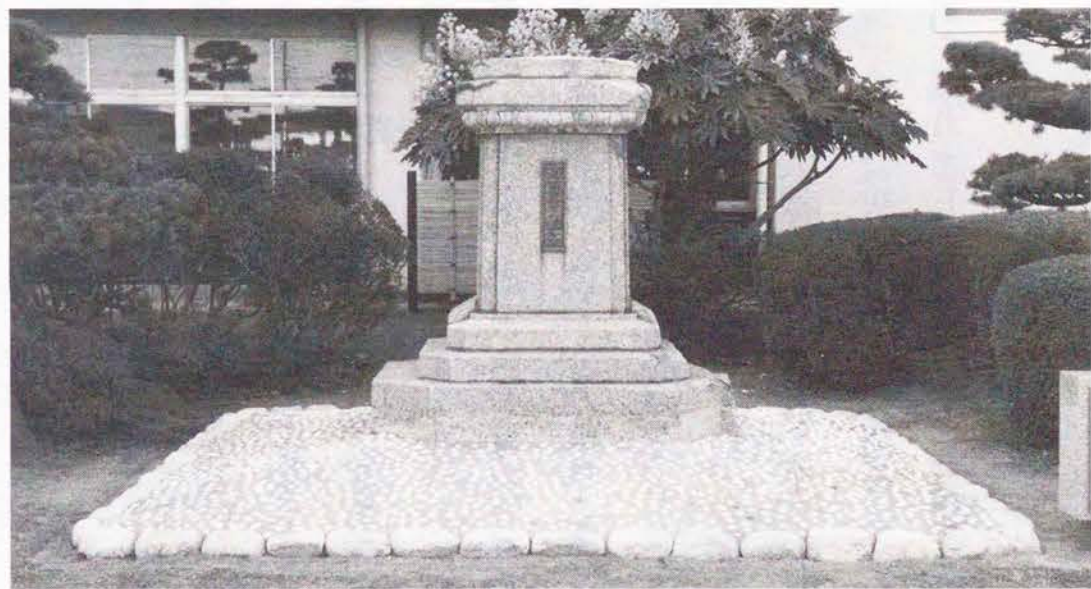
本日ご臨席を賜りましたご来賓、PTA、同窓会の皆様方、そして直接私を支えてくださつております教職員の皆様方におかれましては、これからも末永く、本学園に対しまして変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

また、在学生の皆さんは、意義ある本日の創立百十周年の記念式典に際し、本学園の長い歴史と伝統を思い、心を新たにして「一人は一校を代表する」の生活目標のもと、一心に勉学に励んでいただきたいと思ひます。

最後に、本日の式典にご臨席を賜りました皆様方のご健勝とご多幸を祈念して、私のごあいさついたします。



創立者 須賀栄子先生



須賀栄子先生銅像記念碑

須賀学園は、明治三十三年（一九〇〇年）須賀栄子先生によって宇都宮市に創立された。
先生の没後、卒業生により先生の銅像が建立されたが、太平洋戦争中の貴金属供出令により、銅像は国に献納され、残された台座は昭和二十年七月に全校舎とともに戦災に遭い、以来被災したままの姿で市内松が峰の旧校地内に保存されていた。このたび、須賀学園創立百十周年にあたり、被災した台座を現校地に移設して、戦災記念のモニュメントとするものである。

平成二十二年十一月
須賀学園理事長 須賀 淳

祝辞



栃木県知事 福田 富一

本日ここに、須賀学園の創立百十周年記念式典が盛大に行なわれますことを心からお祝い申し上げます。

須賀学園は、須賀栄子先生が明治三十三年に宇都宮市に共和裁縫教習所を創立したことに始まり、現在、中学校、高等学校、短期大学、大学を備え、県内教育・私学の振興に重要な役割を果たしております。

須賀学園では「全人教育」を建学の精神として掲げ、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、それを磨いていき、社会に役立つ有用な人材を育むことに力を注いでこられました。中学校、高等学校五学科で二千五百人、短期大学二学科、来年度学部の新設を予定されている大学で六百人の生徒学生が学び、それぞれの学校において、特色と専門性にあふれ、次代のニーズを積極的に取り入れた教育を展開されています。

「一人は一人を代表する」という生活目標のもとに学ばれ、貴学園を巣立った卒業生は五万人を超え、その活躍は、

日本のみならず、世界各国の様々な分野においても高い評価を得ているところです。今日の隆盛は、ひとえに、須賀理事長をはじめ、役員、教職員の方々、並びに卒業生や在校生、そして保護者の皆様のためまぬ御努力の賜物であり、深く敬意を表する次第です。

さて、二十一世紀の我が国は、少子高齢化や社会経済のグローバル化の進展、さらには地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題等、解決しなければならない多くの課題に直面しております。

これらの課題に立ち向かい、豊かで安心して生活できる社会を築いていくためには、次代を担う優れた人材の育成が重要であります。県といたしましても、「知恵にあふれ心豊かな人づくり」を県政の大きな柱の一つとして位置付け、多様な能力を育む教育を推進するための各種施策を展開しているところです。

このような時に、須賀学園が創立百十周年を迎えられ、未来に向かって更なる飛躍の歩みを始められますことは、極めて意義深いものがあります。

本時の輝かしい記念式典を契機とし、今後、須賀学園がこれまで永年にわたって培ってこられたその輝かしい伝統と校風を堅持しながら、その独自の建学の精神の下、ますますの発展を遂げられますことを心から祈念申し上げます。お祝いの言葉いたします。

このたび須賀学園が創立百十周年を迎えられ、本日このように盛大に記念式典が開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

貴校は明治三十三年の創立以来、「全人教育」を建学の精神に、幅広い教養と豊かな個性をあわせ持った人間教育を実践しておられ、誇り高き歴史と伝統を持つ総合学園として、県内はもとより、全国でも高く評価されているところであり

ます。貴校におかれましては昭和五十八年、栃木県ではじめて中高一貫教育を導入し、生徒それぞれの個性を伸ばす教育を実践するとともに、少子高齢化社会に対応するため、平成十三年に宇都宮短期大学におきまして、人間福祉学科を設置されました。また、現代の都市問題には、経済・福祉・環境など、さまざまな要素が複合的に関係しておりますことから、宇都宮共和国において、日本ではじめて、現代の都市問題を総合的に研究するシティライフ学部を設けるなど、時代の変化を読み解く先見と、時代に求められる多くの人材を世の中に送り出してきた多大な功績に、心から敬意を表する次第であります。

今、私たちは、地球環境問題、人口減少時代の到来、そして少子高齢化の進展など、多くの課題を抱えております。本市におきましては、そうした厳しい状態にあっても、百年先

決意のことば

木々のあざやかな彩の中に、菊の香薫る今日の佳き日に、多数の方々の御臨席をいただいて、須賀学園創立百十周年記念式典が盛大に挙行されますことを、私たちが在学生一同は大変うれしく思っています。今、私たちはこの記念すべき年に本学園に在学できた感激と学園の長い歴史を心にかみしめているところです。

本学園は、明治三十三年に産声をあげ、創立者須賀栄子先生の崇高な教育の情熱と、「全人教育」の理念のもとに五万六千人を超える先輩たちが学んできました。明治、大正、昭和、平成と、百年にわたる長い歴史の中には、太平洋戦争による校舎全焼、戦後の混乱など、幾多の困難がありました。が、第二代の須賀友正校長先生をはじめ、先生方や関係者の皆様の並々ならぬご努力により、その苦難を乗り越えて、今日の学園の姿を見ることができたのです。本学園は、中学、高校、宇都宮短期大学、宇都宮共和国から成る大きな学園です。来年四月には、共和国に子ども生活学部が増設されるなど、学園は、須賀栄子先生の建学の精神のもと、光り輝きながら、発展の一途を辿っています。

創立百十周年を迎えた本日、在学生三千余名は、先生方のご指導を受けて、不断の自己研鑽を積んでゆこうと決意を新

も持続的に発展できる街として輝き続けるために、教育行政に重点を置き、小中一貫教育の推進、食育や親学の充実、さらには全小中学校への図書館司書の配置などを実践し、将来の宇都宮を担う人材の教育に全力で取り組んでおります。街づくりの原点は人づくりであると言われているとおり、今後もさらなる教育改革、教育環境の充実をはかり、人間力の向上に努めてまいりたいと考えております。

貴校におかれましては、これからも、新たな課題を乗り越え、輝かしい未来を築いていく、人間力豊かな人材の育成に尽力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、創立百十周年を新たなスタートとして、須賀学園の益々のご発展と本日ご出席の皆様のご健勝を御祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。本日は誠にありがとうございます。



たにしたところです。

そして、この歴史と伝統に育まれた本学園の在学生として、「一人は一人を代表する」という生活目標のもと、自信と誇りをもって勉学に励みたいと思います。

ご来賓の皆様、卒業生の先輩の皆様には、今後とも、本学園に学ぶ私たち学生生徒を温かく見守ってくださいますようお願いいたします。

本学園の栄えある創立百十年の記念式典にあたり、私たちの感激と決意を述べて、在学生代表のあいさつといたします。

平成二十二年 十月二十八日

在学生代表

仲田 涼介



論説

安心の子育て環境づくりと人材養成

—— 共和大子ども生活学部の新設によせて ——

宇都宮共和大学長
附属中学校長

須賀 英之



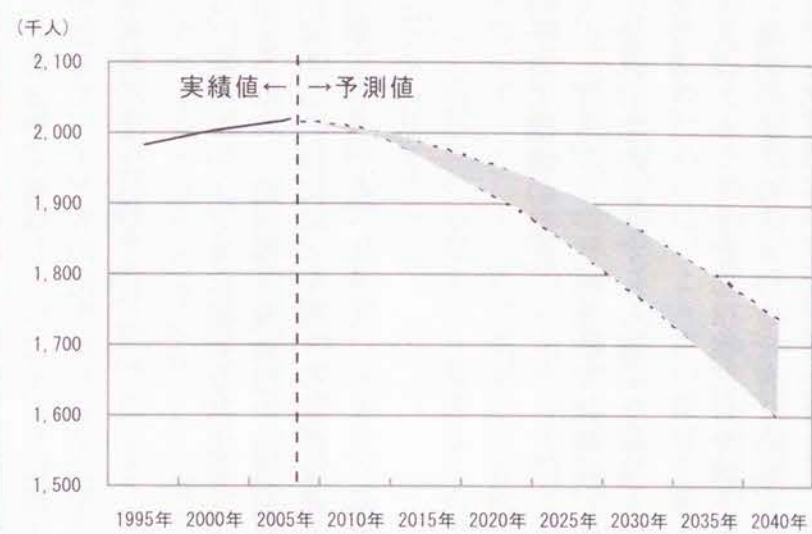
須賀学園創立百十周年の記念事業の一つとして、本年四月に、宇都大人間福祉学科幼児福祉専攻を発展させて、共和大学に子ども生活学部を新設することになりました。その学部創設の背景や教育理念について、ここで話したいと思います。

少子高齢化の未来予測

栃木県の人口は、二〇〇五年の二百一十八千人をピークに、緩やかな減少傾向が続いています。このままでは、生徒の皆さんが社会の中核で活躍する三十年後（二〇四〇年）の人口は、現在に比べ二割も減少し、百六十万となる予想です。本県の出生率（統計上、女性が生涯で生む子供の数）は一・四三人と全国平均の一・三七を上回っているものの、長期的に人口を維持できる出生率二・〇七には程遠いからです。

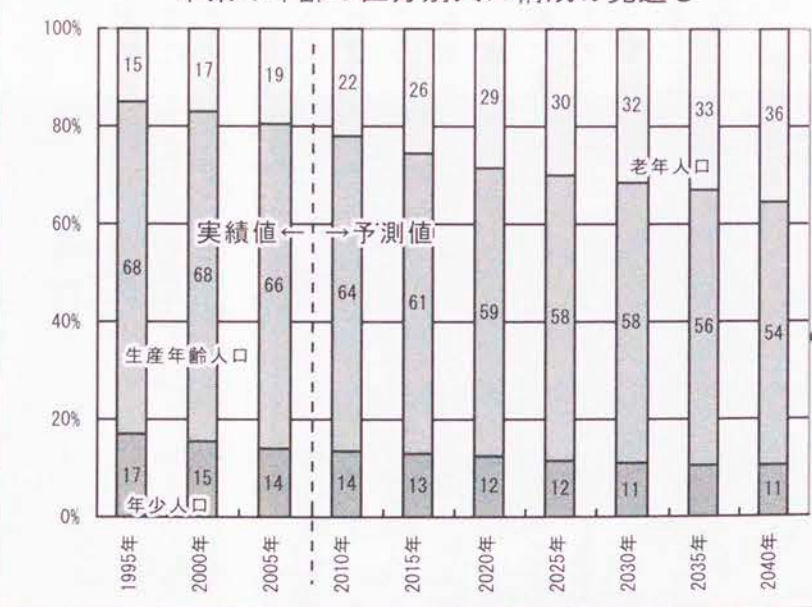
人口構成にも大きな変化が生じます。三十年後には、県民十人あたり、四人が六十五歳以上の高齢者となり、十五歳未満の子どもはたったの一人となってしまうと予測されています。働く世代（生産年齢人口、十五～六十四歳）の五人で、四人の高齢者を支えなくてはならず、年金や医療福祉など社会保障費の負担が重くのしかかってきます。

本県の人口の見通し



平成22年2月 県総合政策部推計

本県の年齢3区分別人口構成の見通し



四捨五入の関係で合計が100%にならないものがあります。
平成22年2月 県総合政策部推計

栃木県総合計画「新とちぎ元気プラン」

私たちの郷土を発展させていくためには、安心して子どもを生め、子育てを支援する環境整備を社会全体で進めていくことが、これまで以上に、重要となっているのです。

私は栃木県総合計画懇談会の会長を務め、本年二月に

「新とちぎ元気プラン」を取りまとめました。ここでの議論から「安心、成長、環境をとつくる、元気度日本一、栃木県」を目標に、政策の基本を「人づくり」にすえて、重点戦略の第一に「安心の子育て環境づくりプロジェクト」が掲げられました。保育所の充実はもちろんのこと、地域で働くお母さんを応援したり、児童虐待

を防ぐ取り組みを拡充することなどを、県の重要施策とすることが決定しました。

「宮っ子 子育て応援プラン」

宇都宮市でも「宮っ子 子育て応援プラン」を策定しています。これまで保健・福祉・青少年健全育成などの各分野で実施していた子どもに関する施策体系を一本化して、子どもの出生から自立に至るまで、一貫性・継続性のある支援を進めていくこととなりました。

国も、就学前の子どもに適切な幼児教育・保育の機会を提供するため、幼稚園と保育園の両機能を併せ持つ総合施設である「認定こども園」の整備を進めるなど、新しい施策に取り組んでいます。

家庭の子育て環境の変化

一方、子どもが育つ家庭生活や地域は、子どもたちの健康な発達のために必ずしも適切な環境とは言えない状況にあります。

たとえば、かつて子どもは祖父母や何人もの兄弟に囲まれ、地域の多くの人々の中で育てられていました。しかし、現在は、核家族化や都市化により、様々な人とか

かわる経験が減少しています。乳幼児期のことは学ぶ時期に、少子化の家庭の中では話す機会が少なく、他人とのコミュニケーションの能力を十分に育てることができません。

子どもですが、うまく係わり、遊ぶ力が育ちにくくなっているのです。また、地域コミュニティの衰退は、母親の育児不安を招いています。

子どもを取り巻く消費文化

また、子どもは衣食住すべてにわたり、見えないところで大量に生産された商品を消費して生活しています。テレビ、ゲーム、ケータイ、パソコンなど人工的に作り出されたものに適応していくことを幼児期から強いられます。

こうした消費社会の中で子どもたちには、主体的にものを考え、自ら環境に働きかける機会が減少しています。水の流れ、樹木や草花、小動物など、四季に応じて柔軟に変化する自然と向き合い、命あるものの動きに感動したり、興味をかきたてられる経験もまた、少なくなっています。

子どもたちには、自然や命あるものへの思いやりの心や優しさを育てる機会が必要なのです。

人格形成の基礎を培う乳幼児期の教育

子どもの生活環境は、その後の児童期、青年期の発達に影響を与え、人間の生涯にわたる発達の基本となります。子どものためには、より良い環境を整え、適切な教育をおこなう必要があります。

子どもが情緒的、身体的に健全に発達するためには、親や周囲の人々の子どもへの温かな愛情と理解が、何よりも大切です。そして、乳幼児期の教育は、人間の生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることは言うまでもありません。

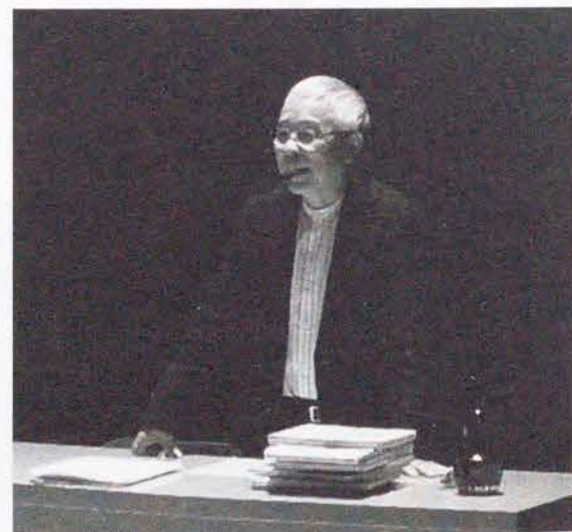
子どもはそもそも、自ら育つ大きな可能性を持っており、乳幼児期の成長は、人生の中でも最もめざましいのです。子どもたちは、やがて家庭から出て保育所や幼稚園などの場で成長していきます。こうしたことから、地域社会での保育や幼児教育にかかわる環境の整備は、今、最も重要な課題となっているのです。

共和大子ども生活学部教育理念

宇都宮共和大学子ども生活学部では、このような時代が必要としている人材を養成します。幼稚園や保育所の先生にとどまらず、音楽・体育など幼児教室の指導者、子育て相談や親への支援を行う人材も求められています。さらに、健やかな成長に役立つ玩具や食品、衣料品などを開発する企業にも子どもの専門家が必要です。



▲宇都宮市ゆうあいひろばでの学生ボランティア活動



▲地域福祉公開講座 いわむらかずお先生の講演

また、地域の高等教育機関として、親や保育者、市民に対しても、さまざまな社会貢献を目指していきます。学際的に都市生活の課題を探索するシティライフ学部とも連携して、子どもの生活と大人の生活を同時に捉え、家庭生活や社会生活における子どもの課題を総合的に研究していきたいと考えています。都市という場そのものを捉え、そこでの人々の誕生から成人まで、成人から老齢にいたるライフサイクル全般を対象とし、それを社会との関係性を重視しつつ見直してゆく研究と教育の必要があるからです。

生徒の皆さんは、この地球上の子どもたちのために、日本や栃木の子どものために、そして自分の将来の子どものために、将来、どのようなことをしたいと思いますか？

子ども生活学部では、子どもと共に自分も楽しく生活し、活動し一緒に成長できる専門的な仕事への道を開きます。須賀学園の建学の精神である『全人教育』を目標に、豊かな感性と教養を身につけ、保育の専門知識や技術を幅広く学びます。

子ども生活学部はきっと、あなたの自身の『未来への希望』を実現させてくれることでしょう。」

子ども生活学部長からのメッセージ



子ども生活学部長
牧野カツコ教授

学部長に就任される牧野カツコ教授（お茶の水女子大学名誉教授、お茶の水女子大学附属幼稚園前園長、宇都宮市出身）から、生徒の皆さんにメッセージをいただきました。

「子どもは未来です。子ども達は希望です。子ども生活学部は、子どもが大切にされ、子どもが健やかに成長し、生き生きと育つことのできる社会を目指しています。」

特集1 創立百十周年を祝う

平成二十二年十月二十八日、本校の須賀栄子記念講堂大ホールに多くのご来賓をお招きして、須賀学園創立一〇〇周年記念式典が盛大に挙行されました。

式典は先ず須賀英之副理事長の開会の言葉で始まり、参列者一同での国家斉唱の後、本学園理事長の須賀淳校長先生が「明治三十三年十一月三日、私の祖母須賀栄子が、本学園を創立して以来百十年。長い間にわたる各方面のご協力に感謝するとともに、今後ますますの学園の充実発展と、学生生徒の教育に全力を傾注したい」と旨のあいさつをなさいました。（詳細は巻頭の校長あいさつに掲載）

その後、席上の来賓を代表して、福田富一栃木県知事（代理・須藤揮一郎副知事）、佐藤栄一宇都宮市長（代理・横松薫副市長）、栃木県私立中学

高等学校連合会船田元会長の御三方が祝辞をのべられました。皆様口をそろえて本学園の輝かしい伝統をたたえ、今後なお一層の発展を期待することを強調されていました。

また、この日をお祝いする各方面から寄せられました祝電が披露された後、仲田涼介生徒会長が在学生を代表してあいさつ（別掲）をしました。

つづいて、宮本哲朗氏（栃木県オペラ協会演出家）、本校出身で東京藝術大学大学院を修了された森朱美・川久保博士の両氏を迎え、宇都宮短期大学教授の星野和夫先生の指揮のもと、本学園の教職員や学生生徒、卒業生などにより編成されたオーケストラによる記念演奏が行なわれ、大ホールいっばいに流れる素晴らしい音色が聴衆を魅了しました。

記念式典後には、会場を同講堂の小ホールに移して、記念祝賀パーティーが催されました。校長先生のあいさつの後、築郁夫宇都宮商工会議所会頭の乾杯の音頭で祝宴になり、会場は高橋文吉県議会議員の中締めの後まで、笑顔や笑い声であふれていました。



教職員一同、百十周年の喜びを生徒と分かち合うとともに、教育に邁進する決意をあらたにしました。

特集2

宇都宮共和国に子ども生活学部新設

宇都宮共和国に今春4月から「子ども生活学部子ども生活学科」が新設されることになりました。子どもの生活・保育・幼児教育のプロフェッショナル養成をめざして1000人の募集定員でスタートします。

新校舎は姉妹校の宇都宮短期大学がある宇都宮の長坂キャンパスに建設中ですが、同大はこれによりシテイライフ学部と子ども生活学部の2学部体制に拡充されます。

子ども生活学部は、就学前の子どもたちを取り巻く、ひと、もの、社会・自然環境とのかかわりあいを総合的にとらえ、子どもの健康で豊かな発達を支えるための研究・教育を実践し、感性豊かで社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

保育士や幼稚園教諭（1種免許状）取得のための科目に加えて、幅広い分野

で活躍できるように、様々な科目が開講されます。4年間のカリキュラムには一般教養科目・語学や「職業と家庭生活の設計」のほか、「子ども生活概論」「やこころの育ちと働きを考える」「発達心理学」、楽しく音楽と触れ合う「リトミック教育法」、人間関係の源となる「レクリエーション演習」などの特色ある専門科目を履修します。

卒業後の進路は幼稚園、保育所などのほか、音楽や体育の幼児教室、子育て支援施設、子ども関連企業などでの活躍を目指します。学部長に就任する牧野カツコ教授は「子どもの幸せを願う、みんなで支えあう温かい地域社会づくりに貢献したい」と語っています。



平成23年2月完成

特集3

普通科に特別選抜コース新設



新設
特別選抜コース
最難関国立大学への
現役合格を目指す

普通科
General Culture Course

平成二十三年度から、普通科に特別選抜コースが新設されます。このコースは、東大・京大・国立大医学部・早稲田大・慶應義塾大など日本の最難関大学への現役合格を目指すコースです。

トップレベルの大学を視野に入れ、ハイグレードな質や量、そして密度の高い毎日の授業が展開されます。共通した進路目標に向かいそれぞれの道が切りひらかれます。

POINT 1 思いを現実に

「東大への合格はどうせ無理だろう」と思っているのは合格できません。「自分ならきっと東大に合格できる」と思える生徒に育てます。

POINT 2 基本事項の確認と苦手克服

最難関大学に合格するには、やはり基礎学力が大切です。そのなかで最も重要な教科は英語と数学です。大学入試センター試験での配点が高いこの2教科は、基本事項を確認しながらチーム・ティーチングによるきめ細かい授業を展開し、潜在能力に磨きをかけます。苦手教科については、その克服を果たすための的確なアドバイスを行います。

POINT 3 最難関大学現役合格へのサポート

最難関大学現役合格までの道のりを徹底的にサポートしていきます。校内外の模擬試験を通しての受験指導、最新の大学受験の情報提供など、本校がこれまで蓄積してきた大学受験のノウハウをフルに活用し、進路相談や少人数授業はもちろんのこと、最高の学習環境のもとで現役合格へと導きます。

学 園 告 知 版

宇短大附属高校・ ファミリーマートの コラボ商品発表!!

本校調理科とファミリーマートによる共同開発スイーツ、「とちおとめサンド」、「栃木の集クリーム」の2種類が十月十五日発売されました。本校調理科の生徒から出た250のアイデアを吟味し、四ヵ月間試作を重ねた自信作です。地産地消をコンセプトに、とちおとめや那須山麓牛乳を使ったクリームをふんだんに使用しています。ちなみに、「集クリーム」の名前に、仲間の意見もたくさん集めたという意味を込めています。昨年、ファミリーマートと共同開発した「たまり漬けおむすび」と「栃木県産豚のピリ辛豚焼肉丼」が大好評だったということで、今回は販売地域を拡大し、栃木県を

含む関東、東海地区計一都十二県約四千店舗で扱っていただくこととなりました。男性でも食べてもらえるおいしさに仕上がり、大変な好評をいただきました。



第二十三回 栃木県きのこ料理コンクールで 最優秀賞授賞式

十月十四日(木)にテブコ・ラ・フォンテで行われました第23回きのこ料理コンクールにおきまして、以下のような輝かしい結果をおさめることができました。一般の部で最優秀賞を受賞した調理科二年の半田さんは「しいたけがまるごと味わえるよう工夫した」とのこと、全国大会出場に向けて意気込んでいました。

一般の部
最優秀賞
調理科二年二十二組 半田 恵久
(清原中出身)

全国大会出場
「しいたけの笠づめコロッケ」

奨励賞
調理科三年二十組 川島 愛美
(野木中出身)

調理科一年二十組 大越 栄輝
(宮の原中出身)

調理科一年二十一組 山田 花恋
(南河内第二中出身)

ジュニアの部
最優秀賞

中学三年一組 齋藤 麻優
(国分寺小出身)

「たつぷりきのこの旨味噌グラタン」

優良賞

中学一年一組 蓬田 陽介
(壬生小出身)

奨励賞

中学三年一組 熊谷 幸帆
(鑓瀬小出身)

中学三年二組 関口 流生
(波立小出身)

宇短大OBOGウインドオーケストラが 栃木県吹奏楽 コンクールで金賞に!!

八月一日(日)に宇都宮文化会館で行われました第五十二回栃木県吹奏楽コンクールに職場・一般の部で出場しました。課題曲「汐風のマーチ」、自由曲「ドラゴンファイト」を演奏。この楽団は、本校生や、本校卒業生、宇短大生などで構成され、職場・一般部門では県内一平均年齢が若いとされています。しかし、本番では、その若さと団結力を存分に発揮し、見事、金賞を受賞しました。さらに九月十九日(日)に千葉県文化会館で行われます第十六回関東吹奏楽コンクールに県代表として出場し、第二位銀賞受賞。来年は関東東大会でも金賞を目指します。



第三十二回 栃木県高校総合文化祭写真展にて 特選受賞!

十二月八日(水)に栃木県総合文化センターで行われた第三十二回栃木県総合文化祭写真展の審査において、本校普通科2年生の佐藤杏奈(宇短大附属中出身)がA部門「青春ポートレート」で見事特選を受賞しました。

本誌裏表紙に掲載したこの写真は、本校が毎年五月に行っている大学見学で東京大学に行ったときに撮られたものです。「緑の美しい広場の中、友達が見上げた瞬間がとても綺麗だったの」が思わずカメラを向けた。感激の瞬間が写真を見ていただいた方にも伝われば嬉しい。」と本人。「これから、もっと素敵な作品が出来るように、様々な被写体で写真を撮って、経験を積み、また感性と技術を磨いていきたい。」と意欲を燃やしていました。

なお、本作品は二月二日(水)〜六日(日)にさいたま市文化センター展示室で行われる第十七回関東地区高等

学校写真展への出展が決まりました。

第十九回 全国高文連将棋新人大会で 全国4位入賞！

1月27日から29日にかけて日光市鬼怒川で行われました第19回全国高文連将棋新人大会に本校普通科1年大塚玲奈さん（豊郷中出身）が出場いたしました。

初日は順当に勝ち上がりベスト16入り。二日目、準々決勝の相手は、昨年本大会で準優勝している茅原 有希さん（岡山県立朝日高校）。大接戦のすえ、積極的な攻めが功を奏し、見事勝利！ベスト4入りを決めました。

準決勝の相手は山口 絵美奈さん（宮崎県立都城泉ヶ丘高校）との1年生同士の戦いになりました。『中盤に入り、慎重になり過ぎていたような気がします。もっと力強い将棋を指せれば良かったと思います。』と準決勝の

戦いを振り返っていました。

3位決定戦の相手は昨年8月の高文連祭（宮崎）で優勝している小山田友紀さん（岩手県立高校）。大熱戦を繰り広げましたが惜敗となりました。

しかし初出場の今大会で全国4位入賞という輝かしい成績を残すことができました。『全国には強い方々が多く、自分はまだまだだと思いました。自分がやりたいこと、できることを精一杯頑張ろうと思います。』と次への大会にむけて、気持ちを新たに、力強く語ってくれました。



【ソフトテニス部の活躍】

ハイスクール・ジャパンカップ二〇二〇県大会で、男子ソフトテニス部が優勝！全国大会に！

四月十日（土）に行われました第三十九回ハイスクール・ジャパンカップソフトテニス二〇一〇栃木県代表選考大会におきまして、情報商業科二年・岩上将斗くん（南河内中出身）と同二年・川俣正太くん（南河内中出身）のペアが、みごと優勝！進学三年・黒河啓五くん（小山三中出身）と情報商業科二年平山知樹くん（大田原中出身）のペアも、第二位に入賞しました。

特に、県トップとなった岩上・川俣ペアは、六月二十四日（木）から北海道で開催される全国大会に出場が決定！本校男子ソフトテニス部としては、五年連続八回目となる栃木県代表選手枠【推薦】を獲得することができました。

情報商業科一年 寺島 直（乙女）
情報商業科一年 佐藤 達哉（南河内）

【女子ソフトテニス部】

情報商業科三年 石川明日香（芳賀）
生活教科三年 小川 真依（陽北）

関東大会のソフトテニス男子団体が 七年振り、二度目の優勝！

六月四、五、六日に茨城県水戸市の水戸市総合運動公園で行われた関東高等学校体育連盟・茨城県教育委員会主催の平成二十二年県立高等学校ソフトテニス大会が行われました。男子団体におきまして、本校は、専修大付属（東京）に二一、拓殖大紅陵（千葉）に三〇、東海大相模（神奈川）に二一、決勝戦では武蔵越生（埼玉）に二一で勝利し、七年ぶり二度目の優勝を獲得することができました。苦しい場面も何度かありましたが、選手達の団結力と強い精神力が結果に結びついたことでしょう。

皆さまのご声援を、どうぞよろしくお願いいたします。

県高校総体（関東大会予選）で、 ソフトテニス部の男子個人・団体と 女子個人が関東大会へ出場決定！

五月一日（土）から三日（月）にかけて開催された、栃木県高等学校体育連盟・栃木県教育委員会主催、平成二十二年度栃木県高等学校総合体育大会・男女ソフトテニスの試合結果をご報告いたします。

まず、県トップの戦績を誇る男子ソフトテニス部は、個人で我妻・鍛冶ペアが優勝！本城・赤坂組が準優勝を獲得！団体戦では決勝リーグ全勝で優勝し、関東大会出場を決めました。関東大会団体は二年ぶり七回目となりました。県内十六ペア出場できる関東大会個人戦への切符のうち、本校が過去最多の十ペア出場を決めることができました。また女子個人では、石川・小川組がBEST16に入賞し、関東大会への二年連続となる出場を獲得すること

【男子ソフトテニス部】

普通科三年 我妻 寛之（今市）
情報商業科三年 鍛冶 恭佑（若松原）
情報商業科三年 本城 芳将（三島）
普通科三年 赤坂 浩史（国本）
情報商業科二年 岩上 将斗（南河内）
情報商業科二年 川俣 正太（南河内）
普通科三年 和久 晃輔（国本）
情報商業科三年 伊藤 佑将（藤原）
普通科三年 黒河 佳五（小山第三）
情報商業科二年 平山 知樹（大田原）
情報商業科二年 岩上 光志（埼玉）
情報商業科二年 阿久津健太（芳賀）
情報商業科三年 阿部 一祥（若松原）
調理科三年 堀中 雄介（芳賀）
普通科三年 赤羽根寛樹（鹿沼北）
情報商業科三年 山口 真（佐野西）
普通科二年 宇賀神 将（宮原）
普通科二年 丹治 有輝（今市）

インターハイ、全国大会へ！

ソフトテニス女子個人二ベアが出場決定！
ソフトテニス男子個人優勝、準優勝三位、六位で
四ベア出場団体も優勝旗奪回！

六月十二日（土）に行われた、栃木県総合運動公園テニスコートで行われた平成二十二年第五十五回全国高等学校総合体育大会（インターハイ）栃木予選会におきまして、本校女子ソフトテニス部の個人二ベア石川明日香（情報商業科三年、芳賀中学校出身）、小川真依（生活教養科三年、陽北中学校出身）組が第六位入賞！ 八月九日（日）から沖縄県沖縄市にある沖縄県総合運動公園庭球場で開催される全国大会に出場という栄冠を獲得することができました。

一方、六月十三日（日）から二十一日（月）にかけて栃木市総合運動公園テニスコートで行われた男子の部では、我妻寛之（普通科応用文理コース三年、今市中学校出身）、伊藤佑（普通科特進コース三年、藤原中学校出身）組が優勝。本城芳樹（情報商業科三年、三島中）、赤坂浩史（普通科進学コース三年、

国本中学校出身）組が準優勝！第三位には和久晃輔（情報商業科三年、国本中学校出身）、川俣正太（情報商業科二年、南河内第二中学校出身）組、第六位には阿部一祥（情報商業科三年、若松原中学校出身）、堀中雄介（調理科三年、芳賀中学校出身）組の計四ベアが入賞し、インターハイに出場しました。さらに、団体の部では、二年ぶりに優勝することができました。

男子ソフトテニス 関東四強入り 全国選抜大会出場決定！

第三十六回関東高校選抜ソフトテニス大会に本校男子ソフトテニス部が出場しました。初戦、市川高校（山梨県代表）に三〇で勝利。準々決勝は敬愛学園（千葉県代表）と戦い、最終ベア、第七ゲームまでもつれる接戦となりましたが、気持ちの強さで粘り勝ちし、関東大会四強入りを果たしました。同時に全国選抜大会への出場権も獲得しました。



「下野新聞11月16日付より」



「下野新聞11月17日付より」

準決勝では、前橋商業高校（群馬県代表）に惜しくも〇二で敗れてしまいましたが、出場権を獲得した全国選抜大会でこの雪辱を晴らしたいと部員一同、より一層練習に熱が入っています。全国選抜大会は三月二十八日（三十日）に愛知県名古屋市の日本ガイシスポーツプラザで行われます。応援よろしくお願いたします。

第一ベア

岩上将斗（南河内中出身）
川俣正太（南河内中出身）

第二ベア

岩上光志（広島中出身）
平山知樹（大田原中出身）
丹治有輝（今市中出身）

第三ベア

高久慶太（東那須野中出身）

教育実習生、 母校の教壇に



国語科

教育実習を終えて

学習院大学 山崎 絵美

三週間の教育実習を終えた今、私は心から幸せを感じています。三週間前のホームルーム。きこえない足取りで教壇に向かい、震える声で挨拶をしたあの日。今や教壇は定位置となり、廊下まで響く声で指示を出せるようになるまで成長できました。

前半の参観授業では、先生方の様々な指導技術を学ぶことができました。今まで生徒として受け身の姿勢でしか授業に臨んだことがない私ですが、初めて教える側の視点に立って授業に参加したこの実習では、新たな発見がたくさんありま



した。まず感じたのは、先生方は五十分間を有効に使うために様々な工夫を凝らしていて、そのためには事前の準備、思案が人念に行なわれているということでした。授業の中で先生の言動すべてが、生徒の学び・成長につながっていました。やはり、学校の授業の中での学習こそが基本であり全ても実感しました。学生と教育者の間にいた教育実習生として、それを一番に生徒に伝えたいと思います。また、教室管理の面においては、先生方は授業をしながら至る所で注意を促したり、緩急をつけて話したりと、常に生徒全員の学習意欲を保つために気を配っていました。これは自分が高校生の頃には思いもよらなかったことで、これまでに自分が受けてきた教育に対して、今改めて深く感謝します。そして、何よりも感慨深かったのは、学校の授業ではあえての「突き放し」を行なっているということです。先生方は、何もかも教えてしまうのではなく、生徒自身が考えたり調べたりする学習活動を必ず取り入れていたのです。そして生徒は、その学習活動に意欲的に取り組んでいました。そのように楽しく真剣に取り組む

編集後記



二〇一一年というこの年に、須賀学園創立一〇周年記念号として、伝統ある生徒会誌『ひめまつ』第六十五号を皆さまにお届けできることを、私たち編集委員一同、心より嬉しく思っております。

まず、巻頭の須賀淳理事長と須賀英之副理事長の論説からは、長い歴史と伝統を持つ私たちの学園が、新しい時代の到来とともに今後なお一層充実発展し、目覚ましい躍進を続けていくであろうことが、先生方の気概や熱意とともに感じとれるはずです。

そして、巻頭グラフでは、昨秋行なわれた須賀学園創立一〇周年記念式典や学校祭の様子を、また、特集記事では、同じく記念式典の様子や、今春新たに、宇都宮共和大学に開設される子ども生活学部と高等学校普通科に設置される特別選抜コースのご紹介を中心にお伝えできたと思います。附属中コーナー、宇都宮共和大学・宇都宮短期大学（人間福祉学科）コーナーの他にも、読書感想文やH R 作文などすばらしい作品が多く、皆さまからお寄せいただいた写真やイラストも大いに誌面を飾ってくださいました。

私たちが携わったこの『ひめまつ』は、戦後間もない一九四七年（昭和二十二年）三月に創刊されました。その長い歴

史と伝統を踏まえ、さらに本学園の「語り部」として百年、二百年の礎になるのかと思うと、多くの皆さまにぜひ隅から隅まで読んでいただき、一世紀を超えて変わらぬ本学園の「全人教育」の今日の姿を共有したい、という心持がより強く湧いてまいります。

最後になりましたが、一年間にわたり懇切なご指導をいただきました編集委員会顧問の奥田久美子・水沼智恵・佐々木いずみの各先生に、心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

（編集委員長・石黒和貴）

「ひめまつ」第六十五号（非売品）
平成二十三年 月 日 印刷・発行

宇都宮短期大学附属高等学校

編著者 編集委員会顧問 奥田久美子

発行者 生徒会長 宮岡 翔

印刷所 栃木県宇都宮市平松本町二〇一四

株式会社タナカ

〇二八（六三六）〇〇七七

印刷者 田中司郎

発行所 宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

〒320 8585 栃木県宇都宮市陸町一番三十五号

TEL 〇二八（六三四）四一六一三番

FAX 〇二八（六三五）三五四〇

ホームページ <http://www.utanfished.jp>

メールアドレス info@utanfished.jp

◆ ◆ 校 史 と 校 章 ◆ ◆

須賀学園は、昨年11月3日で創立110周年の記念日を迎えましたが、これを記念して式典や演奏会、学校祭、大学祭が開催され、本学園の教育実践の全容を広く内外に示すことができました。

思えば、本学園は、明治33年（1900年）に須賀栄子先生によって創立されました。栄子先生は、女子に最も喫緊な技芸を教授され、その時代と境遇に順応すべき実践的婦人の養成を本学教育の趣旨となし、共和裁縫教習所から明治34年共和裁縫女学校、大正13年宇都宮須賀女学校、昭和7年宇都宮女子高等職業学校と校名を改め、学校を発展させてゆかれました。その後を第2代校長の須賀友正先生が受け継がれ、昭和21年須賀高等女学校、同23年学制改革により宇都宮須賀高等学校と校名変更をし、さらに同42年宇都宮短期大学（音楽科）を新設し、現在の宇都宮短期大学附属高等学校となりました。

その友正先生の後を引き継がれたのが、第3代現校長の須賀淳先生です。先生は、昭和58年宇都宮短期大学附属中学校（中・高6か年一貫教育）を併設され、宇都宮共和大学の開学、宇都宮短大の学科増設、須賀学園教育会館および第2グラウンドの新設と、ますます学園を発展させ現在に至っています。

本校の生活目標である「一人は一校を代表する」という言葉（本誌の巻頭を参照）の意味は、本校生徒の一人一人が、それぞれに自らの価値を知り、その価値を自覚して生活することこそ人間の大きな喜びにつながり、幸福への第一歩にもなるというものです。ここには、創立者須賀栄子先生が掲げられた「全人教育」の精神が、100余年かわらずに脈々と生きづいています。

また、現在に至るまで、本校にはいくつかの校章がありましたが、現在の校章（本誌の表紙を参照）は、カタカナの「ス」の文字を3個組み合わせて図案化した須賀家の合印で、その中央に「高」の文字が挿入されています。（合印とは、いわば目印のようなもので、昔戦場で敵味方が入り乱れて戦うとき、その腕につけさせ、敵か味方かが見分けられるようにしたものです。）これは、須賀家の家系譜から第2代校長の須賀友正先生が校章と定められたもので、文字は金色、生地は純白色ですっきりとしており、いかにも清潔な感じのする校章です。現校旗と同じ、昭和34年11月3日に、創立60周年記念事業の一環として制定されました。

高文祭写真展 **特選**



「見上げた先に」 宇短附高2年 佐藤杏菜
22.5.15 一日旅行・東大安田講堂前にて